

令和5年平和祈念滋賀県戦没者追悼式 知事式辞

本日、多数の御遺族ならびに御来賓の皆様をお迎えして、令和5年平和祈念滋賀県戦没者追悼式を執り行うにあたり、一言申し上げます。コロナ禍を乗り越え、本日再び、多くの皆様が一堂に会し、ともに思いをいたす場を設けることができました。滋賀県民を代表して、先の大戦で亡くなられた全ての御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

先の大戦が終結して、78年の歳月が過ぎました。この戦いでは滋賀県出身の32,715名の尊い命が失われました。遠く故郷を離れ、祖国の安泰を願い、愛する家族を思いつつも、壮絶な戦場に倒れ、傷つき、あるいは飢えや病に苦しみながら多くの方が異国の地で亡くなられました。残された御遺族のお気持ちや塗炭の御苦勞を想うと、今なお悲痛の思いが胸に迫ってまいります。

去る8月2日には、滋賀県・湖南省友好提携40周年記念事業の一環といたしまして中国湖南省を訪問し、かつての激戦の地で献花を行い、戦没者の追悼と恒久平和の誓いを表明しました。ここでは、先人の悲しみや苦しみがあった時代と今がつながっていることを決して忘れず、二度と戦争の惨禍を繰り返してはならないとの思いを未来へと語り継いでいかなければならないと強く感じたところです。

訪中に先立ち平和祈念館で拝見した、戦地から幼い子を思う父の気持ちが綴られた手紙や、激戦の中で生死の淵をくぐりぬけた経験談を思い出し、万感胸に迫るものがありました。改めて戦争という取り返しのつかない事実を噛みしめる時、私は断腸の思いを禁じ得ません。

私は、これまでも、滋賀県遺族会主催の戦跡慰霊巡拝におきまして、沖縄、フィリピン、サイパンに御一緒させていただき、それぞれの地での慰霊とともに、御遺族の平和に対する強い思いを伺ってまいりました。戦後80年に向けては、これまで慰霊のできなかつた地域も含めて御遺族の皆様が慰霊ができるよう道筋を付けてまいる所存であります。

また、今月22日には、県内の戦没者の慰霊のために建立されている「滋賀県戦没者英霊塔」の周りを、滋賀県遺族会の皆様と一緒に清掃させていただき、そのもとにある御英霊の位牌に手を合わせました。

戦争を知らない世代が県民の88パーセントとなるなか、戦争の悲惨さを伝え、風化をさせないことは今を生きる我々に課せられた使命です。肉親や身近な人を戦争で亡くした世代と次の世代とでは、戦争に対する思いが異なるでしょう。そうした中、たとえ戦後80年、100年が経過しようとも、その記憶を風化させることなく、未来に向かって歴史を直視しながら具体の行動を起こしていくことが重要です。

本日は、近江兄弟社中学校の生徒による「平和メッセージ」の発表のほか、大津児童合唱団の皆様による合唱を予定しております。さらに、後日、本日の式典の様様をユーチューブで配信いたします。ひとりでも多くの若い皆様動画を見ていただき、世界の恒久平和について考え、祈る機会となれば幸いです。

今なお紛争の絶えない世界情勢のなかで、戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代に引き継ぐとともに、誰もが安心して、心豊かに暮らせる湖国滋賀を未来に引き継いでいくことを、ここに固くお誓い申し上げまして、式辞といたします。

令和5年8月26日

滋賀県知事 三日月 大造